クォンティフェロンTB-2Gを用いた結核感染診断検査

結核感染の増加とともに、感染防止、接触者健診が重要になっています。従来の接触者健診ではツベルクリン反応が用いられてきましたが、過去のBCG接種によるものか最近の結核感染によるものかの判定が難しいこと、判定者による差があること、また、被験者にとっては検査と判定で2回の来所が必要であることなどの問題がありました。ヒト型結核菌の遺伝子配列の中で、BCGワクチンに用いるBCGとは異なる領域が同定され、その領域から産生される結核菌特異蛋白ESAT-6、CFP-10を、結核既感染者の血液に添加した際に放出されるインターフェロンγ（IFN-γ）をELISA法で測定するクォンティフェロンTB-2G検査（QFT検査）が開発されました。BCG接種やほとんどの非結核性抗酸菌感染の影響を受けない特異度の高い検査法で、結核菌感染の有無を判定できる検査とされています。診断薬として承認され、保険収載もされました。国の接触者健診の新ガイドラインではQFT検査が最優先と推奨されています。

横浜市接触者健診手引き[1)]の改訂に伴い、2007年11月から、この検査を実施導入しましたので、2009年3月までの結果を報告します。表に示したとおり、2007年11月から2009年3月の間に、947検体について検査を行った結果、陽性73件（7.7%）、陰性824件（87.0%）、判定保留44件（4.6%）でした。搬入時の温度不適および遅延、検体溶血、乳ビ[2)]等による判定不可6件、また、採血量不足のため規定量での培養ができず参考値での報告となった検体など問題点がありました。今後も各福祉保健センターとの連絡を密にし改善していくとともに、集団接触者検診においてQFT検査を続けたいと考えています。

表　取り扱い事例数[3)]と件数およびQFT結果

	福祉保健センター	A病院	計
2007年11月～2008年3月	111事例　321件	5事例　5件	116事例　326件
陽性	35	0	35
陰性	268	5	273
判定保留	16	0	16
判定不可	2	0	2
2008年4月～2009年3月	191事例　598件	13事例　23件	204事例　621件
陽性	37	1	38
陰性	529	22	551
判定保留	28	0	28
判定不可	4	0	4
計	302事例　919件	18事例　28件	320事例　947件

1) 横浜市健康福祉局. 横浜市結核接触者健康診断の手引き　横浜市健康福祉局　平成19年9月
2) 食事などで摂取した脂肪の影響で血清成分が白く濁った状態
3) 1事例：初発患者1人

【　細菌担当　】